科目	甘林宁羽 1 /078		科目ナンバ	バリング	L-FUSE0-00. H	単位数	2単位	対象	1左	開講	<del>24.</del> #0
名	基礎演習 I (2限	H)	科目コ	ード	B50001	時間	30時間	学年	1年	学期	前期
区分	基礎科目	必修	担当者名	3	鎌	田学			授業 形態	演習	単独
授業 の 概等	〔授業の主旨〕 「論理的な思考法(/d 社試験、あるいは公務 〔ディプロマポリシー ディプロマポリシーの	員試験 ·及びカ	(判断推理 リキュラム	!分野) .ポリシ	対策としても役立つ 一との関連する事項	つはずであ 頁〕	<b>うる</b> 。		<b>養う。こ</b>	れは同時に	将来の入
到達目標	言葉と言葉の「接続関	係」、	「推測」、	「演繹	』について正しくチ	里解する。					
	主題				授 業 計 画 授業内 <sup>5</sup>		間外の学修				備考
第1回	ガイダンス			授業の	進め方						
第2回	言葉と言葉の「接続関	係]		「接続	関係」とはなにか					ディス	カッション
第3回	「解説」と「根拠」			「解説	」、「根拠」の接線	表現を使	いこなす			ディス	カッション
第4回	「付加」と「転換」			「付加	」、「転換」の接線	表現を使	いこなす			ディス	カッション
第5回	「接続関係」のまとめ	1		これま	でのポイントを練習	間題を解	いて確認す	る		ディス	カッション
第6回	「接続構造」			「接続	構造」を図で表現す	<sup>-</sup> る				ディス	カッション
第7回	指示関係			指示さ	れていることを明示	きする				ディス	カッション
第8回	まとまった文章の分析	:		文章全	体を通読して、そ <i>の</i>	)構造を図	で表現する			ディス	カッション
第9回	議論の組み立て			議論を	始める際に注意すべ	きこと				ディス	カッション
第10回	主題、問題、主張			左記3	項の意味を理解する	, )				ディス	カッション
第11回	論証の構造と評価			論証を	評価する練習を行う	j				ディス	カッション
第12回	論証構造の分析と評価	i		論証構	造を分析する練習を	行う				ディス	カッション
第13回	演繹と推測			演繹と	推測との違いを理解	¥する				ディス	カッション
第14回	仮説形成			仮説形	成で注意すべき点					ディス	カッション
第15回	まとめ			全体の 	まとめ						
評 活 ス で は 基 基	各種課題(50%)と期末試験(50%)。 期末試験(接続表現、論証図、演繹と推測の区別等について)の評価は解答の正否によって行う。										
課題 等	授業は各自の「作業」	が中心。	となる。提	出され	た課題は翌週に返却	i).					
事前事後学修	毎週課題が出される。	要するほ	時間は3時間	間程度。	>						
教材 教科書 参考書	『新版 論理トレーニ	ング』	(野矢茂樹、	産業	図書、本体2200円、	ISBN978-4	4–7828–0211	I-3)			
留意点	一回でも休むと理解が	難しく	なるので休	まない	いこと。						

				-				l			T	
科目	基礎演習 I (3限	目)	科目ナンバリン	グ	L-FUSE0-00. H	単位数	2単位	対象	1年	開	講	前期
名		/	科目コード		B50002	時間	30時間	学年	, ,	学	朔	12.141
区分	基礎科目	必修	担当者名		鎌	田学			授業 形態	演習	1	単独
	〔授業の主旨〕 高等学校までの学習内 た、社会人として必須 〔ディプロマポリシー ディプロマポリシーの	[の表現 <i>]</i> ∙及びカ	カも養成する。 リキュラムポリ	ノシ	ーとの関連する事項	Į)			がの基礎	、土台作	≣ り と	 :する。ま
到達目標	上記3分野について、	「技能・	知識」を一層	獲得			より高める。	>				
□	主題	<u> </u>			<u>授業計画</u> 授業内和		間外の学修				ſi	 備考
第1回	ガイダンス		授第	便 の i	進め方							
第2回	日本語能力レッスン		自己	2紹2	介する、論説文を読	 :t				課	題解	決型学修
第3回	日本語能力レッスン②	)	論記	文	を読む②					課	題解	決型学修
第4回	日本語能力レッスン③	)	本0	)紹:	介文を書く					課	題解	決型学修
第5回	日本語能力レッスン④	)	短し	いりァ	ポートを作成する					課	題解	決型学修
第6回	日本語能力レッスン⑤	)	短し	\ J 7	ポートを作成する②	)				課	題解	決型学修
第7回	基礎演算力レッスン		簡単	色な言	計算問題を解く					課	題解	決型学修
第8回	基礎演算力レッスン②	)	簡単	色な言	計算問題を解く②					課	題解	決型学修
第9回	基礎演算力レッスン③	)	簡単	値な言	計算問題を解く③					課	題解	決型学修
第10回	時事・一般常識レッス	ン	時事	調用	題の傾向と対策					課	題解	決型学修
第11回	時事・一般常識レッス	ン②	就單	战武縣	験にチャレンジ					課	題解	決型学修
第12回	時事・一般常識レッス	ン③	就單	战武縣	験にチャレンジ②					課	題解	決型学修
第13回	時事・一般常識レッス	ン④	就單	战試馬	験にチャレンジ③					課	題解	決型学修
第14回	時事・一般常識レッス	ン⑤	就單	<b>找試</b> !	験にチャレンジ④					課	題解	決型学修
	まとめ		全位	\$の	まとめ							
評価 方及 評基 基	各種課題(50%)と期	末試験	(50%)。期ま	<b>末試</b>	験の評価は、試験角	<b>解答の正</b> 否	によって行	ið。		_		
課題等	自宅等での「ハードな	作業」、	active lear	nin	gが中心となる授業	。毎週一	定量の課題だ	が出され	 			
事前事後学修	3時間程度の準備が必要	要。								_		
教材 教科書 参考書	『2026年度版最新!SF	'I 3 [完:	全版]』(高橋	書店	、1540円、ISBN978	-4471431	98)					
留意点	なし											

科目	基礎演習 I	科目ナンバリン	グ L-FUSE0-00. H	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期
名		科目コード	B50003	時間	30時間	学年		学期	
区分	基礎科目必修	担当者名	坂	井 任			授業 形態	演習	単独
	[授業の主旨]								
授業 の	大学では、自ら課題を設定し、 成能力を鍛え、大学で学んで			大章にまと	める能力が	で要求さ	れる。こ	の授業では	、文書作
概要等	〔ディプロマポリシー及びカ								
	ディプロマポリシーの5・7・8 	3に関連し、カロ	リキュラムポリシーの	5 • 7 • 813	関連してい	る。			
到達目標	レポートや論文などの論理的 大学生にふさわしい日本語カ 情報検索や図書館の利用法を	・文章力を身に							
	主題		授業計画 授業力		間外の学修				備考
	自己紹介の仕方	自己	紹介の仕方・自己紹介 紹介の仕方・自己紹介			自己紹紹	介		
第2回	図書館利用法	図書	館資料の利用法						<u></u> 館に集合 ・プワーク
第3回	論理的文章作成の基礎(1)		の分類 と意見を区別する						
第4回	論理的文章作成の基礎(2)		な語の選び方						
第5回	論理的文章作成の基礎(3)	文体	の統一						
第6回	論理的文章作成の基礎(4)	句点	・読点・記号の使いブ	ī					
第7回	論理的文章作成の基礎(5)	読み	手が理解しやすい文(	1)					
第8回	論理的文章作成の基礎(6)		手が理解しやすい文( な指標	2)					
第9回	論理的文章作成の基礎(7)	接続	詞と指示語						
第10回	文献の引用		の作法 リストの記載法						
第11回	文章作成の実践(1)	レポ	ート・論文の型とテー	-マ					
第12回	文章作成の実践(2)	小論	文の型						
第13回	文章作成の実践(3)	小論	文の型						
第14回	文章作成の実践(4)	図表	・グラフの使い方						
第15回	資料の読み方	説明	的文章の読み方						
方法 及び 評価	平常点(授業・課題への取り組毎回課題に取り組み、授業への評価する。 試験はなし。			果題は全て	- 【提出し、名	一回の目	標を達成	えしているか	いどうかを
課題等	毎回授業内で課題が出る。授	業の終わりに提	出して、次回に返却で	ける。					
	返却された課題で、できてい 事前事後学習は3時間程度が望		については、プリン	トで確認し	,、復習して	おくこ	٤.		
教材 教科書 参考書	プリントを配布する。								
留意点	なし。								

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリン	ッグ L−I	FUSE0-00. H	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期
件日右	左啶戌日 ュ		科目コート	:	B50004	時間	30時間	学年	'+	学期	削粉
区分	基礎科目	必修	担当者名		奥里	野 武志			授業 形態	演習	単独
	「授業の主旨」 借り物でない自分の言う 論し気づきを言語化する 〔ディプロマポリシー ディプロマポリシーの	作業を 及びカ	くり返すことに。 リキュラムポ	<sup>よって大学</sup> リシーと	学での学びを基礎の関連する事項	礎をつくる: 頁〕	ことを目指す		未読しなれ	がら、疑問に	:ついて議
	1) 借り物でない自分の 2) 他人の考え(研究所			ナルな者	<b>きえをきちんと</b>		すことがで	きる。			
	主題	<u> </u>		:	授 業 計 画 授業内 <sup>3</sup>		間外の学修				備考
第1回	ガイダンス		. 2	▶授業の	目的・概要につ	いて説明				ディス	カッション
第2回	言葉とともにある生活	(1)			、「四角い」。 とを突き放す若					ディス	カッション
第3回	言葉とともにある生活	(2)			ハ」「成金」「 <u>-</u> ご言葉—哲学が如				の言葉	ディス	カッション
第4回	言葉とともにある生活	(3)		「はやす」	ペは幼稚な表現だ 「料る」「ばる いぬ言葉が開く新	さける」				ディス	カッション
第5回	言葉とともにある生活	(4)			い」に隠れた苦 ん」「先生」—		称する意味	と危う	ż	ディス	カッション
第6回	言葉とともにある生活	(5)			出る」とは何を とつおねえさん			の日々の	の一風景	ディス	カッション
第7回	言葉とともにある生活	(6)		―言葉を	こいう漢字がした とめぐる個人の生	生活の歴史				ディス	カッション
第8回	規格化とお約束に抗し	て (1)	•	—「作法 <sub>.</sub> 「まん延」。 —常用漢:	ではなく「それゆ」に頼ることの弊 という表記がなぜ 字表をめぐる問題	誓 :蔓延するの !	か			ディス	カッション
第9回	規格化とお約束に抗し	て (2)		—日本語	と「走る」はる 吾の「やさしさ」 場でなければなり	と「豊か		関係		ディス	カッション
第10回	規格化とお約束に抗し	て (3)			なき社会で起こ れをしたのか」			責任		ディス	カッション
第11回	規格化とお約束に抗し	て (4)	-	認識の	せん」ではすま 表明と約束とし	ての謝罪				ディス	カッション
第12回	新しい言葉の奔流のな	かで (1	1)	「抜け感」 一「OC	という言葉がは 「温度感」「規 D感」の独特の面	現模感」 面白さと危	うさ			ディス	カッション
第13回	新しい言葉の奔流のな	かで (2	2)	-生活に浸 フタカナ語	ト」にあって「和 浸透するカタカラ 吾は(どこまで)	ナ語 避けるべ				ディス	カッション
第14回	新しい言葉の奔流のな	かで(3	3) . –	-新語の導 <i>.</i> 「コロナの <del>・</del>	ウン」「クラスタ 入がもたらす副作 せいで」「コロナ 生む理不尽	用				ディス	カッション
第15回	まとめ		- ‡	受業全体の	の総括					ディス	カッション
評方及 評 基 薬	評価項目及び評価の ・報告の充実度 ・振り返りの充実 ・ディスカッション	隻	: 40% : 40%	する。							
課題 等	・テキストを読み進 ・振り返りはteams?			疑問を積	極的に出し合い	ハ、その場	号で議論する	00			
事前事 後学修	・事前学修:テキス ・事後学修:授業を					事後合わせ	とて3時間程	度の学修	を想定!	している。	
教材 教科書 参考書	・教科書 古田徹七	也『いつ	もの言葉を哲	「学する』	朝日新書、20	21年。(IS	SBN: 978-402	2295153	3)		
留意点	授業計画はあくまで	 予定で	ある。議論の	充実を優	 先するため、i	 進度や内容	『は変わるこ	. とがあ	る。		

			科目ナンバ	バリング	L-FUSE0-00. H		2単位				
科目名	基礎演習 I		科目コ		B50005	単位数 時 間	30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	# 7# 주시 C	. iv 14 <del>5</del>	付日コ	_ r	000000		20四十月				
区分	基礎科目	必修	担当者名	3	神戸	直樹			授業 形態	演習	単独
	〔授業の主旨〕										
授業の	本科目では、「協同学習における問題解決能力のスカッションと発表で構	)育成を	目指す。「	協同学	習」は課題テクストを	そ各自が予	習して授業に	に臨む。	授業は少	♪人数での'	ブループディ
概要 等	〔ディプロマポリシー	及びカ	リキュラム	ポリシ	ーとの関連する事項	<b>(</b> )					
	ディプロマポリシーの	5 • 7 • 8	3に関連し	、カリ=	キュラムポリシーの	5 • 7 • 815	:関連してい	る。			
	大学で学ぶための基礎 題発見・解決能力を向			力、情	報リテラシーを身に	こつけ、コ	ミュニケー	・ション	力、情報	<b>最受信・発</b>	信能力、問
	主 題	1			授 業 計 画 授業内3	字・授業時	間外の学修				備考
	ガイダンス			協同学	習、自宅学習ノート			選定			
第2回	協同学習①-1(初見の	テクス	<b>F</b> )	大学に し)	おける短期的、長期	的目標の	設定、協同	学習実記	銭(予習	な	
第3回	協同学習①-2			自宅学	習(予習)をしたう	えで協同	学習				
第4回	協同学習②-1			自宅学	習(予習)をしたう	えで協同	学習				
第5回	協同学習②-2 レポートの書き方①:ア ポートとは	<b>アカデミ</b>	ック・レ	ミニレ	ポート1(草稿)提	出とピア	レビュー				
第6回	レポートの書き方②: 書く	論理的	な文章を	ミニレ	ポート1(最終稿)	提出とピ	アレビュー				
第7回	協同学習③-1			自宅学	習(予習)をしたう	えで協同	学習				
第8回	協同学習③-2レポート 窃、適切に引用する	の書き	方③:剽	ミニレ	ポート2(草稿)提	出とピア	レビュー				
第9回	レポートの書き方④:	議論を	立てる	ミニレ	ポート2(最終稿)	提出とピ	アレビュー				
第10回	グループ発表①-1(グ を決め、発表準備)	゚ループ <sup>-</sup>	でテーマ	各自の	興味あるテーマと資	料を持参					
第11回	グループ発表①-2(ク ル)	ラス内	リハーサ	自宅学	習ノート提出						
第12回	グループ発表①-3(グ	ループ	発表)	グルー	プ発表の準備と練習	I					
第13回	レポートの書き方⑤: イティング	パラグ	ラフ・ラ	最終レ	ポート(草稿)提出	とピアレ	ビュー				
第14回	レポートの書き方⑥: ji て、論理的に構成する		いを立	最終レ	ポート(最終稿)提	出とピア	レビュー				
第15回	まとめ			前期の	振り返り						
評価 方及 評基 基	授業参加度 (20%) 協同学習 (20%) 自宅学習ノート (25%) レポート (25%) グループ発表 (10%)										
課題等	上記参照										
事前事 後学修	180分/週										
教材 教科書 参考書	参考書:大島弥生他、	2014、	『ピアで学	が大学	生の日本語表現[第	2版]』、7	ひつじ書房。	, (978	4894767	096)	
留意点	授業準備に時間をかけ	、その	単備をもと	に積極	的に授業参加するこ	ことが求め	られる。				

			TIE 1. NI.	L»	I FUCEO OO II		0 # /±				
科目名	基礎演習 I	-	科目ナンバリン		L-FUSE0-00. H	単位数 時 間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード		B50006		30時間				
区分	基礎科目	<b>必修</b>	担当者名		山才	<b>、</b> 尚樹			授業 形態	演習	単独
授業 の 概要 等	〔授業の主旨〕 広い意味での「心」を題 で、大学4年間における! 〔ディプロマポリシー及! ディプロマポリシーの5・	学習の びカリ	基礎力を養う キュラムポリ	う。 リシー	-との関連する事項	<b>(</b> )				-クなどを彳	うこと
	①文章読解、文章執筆、: ②「こころ」に関して多				こつける。		·ルを身につ	ける。			
	主題				<u>授業計画</u> 授業内和		間外の学修				備考
第1回	ガイダンス		授業	の進	め方、留意点						
第2回	自己紹介		自己	紹介	`文の作成と発表						PBL
第3回	身体で考え伝える(1)		身体	をつ	かったワークショ	ップを行	う(1)				PBL
第4回	身体で考え伝える(2)		身体	をつ	かったワークショ	ップを行	う(2)				PBL
第5回	身体で考え伝える(3)		身体	をつ	かったワークショ	ップを行	う (3)				PBL
第6回	頭で考え伝える(1)		文南	調査	とレポート執筆(	(1)					PBL
第7回	頭で考え伝える(2)		文南	調査	とレポート執筆(	(2)					PBL
第8回	頭で考え伝える(3)		文南	調査	とレポート執筆(	(3)					PBL
第9回	頭で考え伝える(4)		文南	調査	とレポート執筆(	(4)					PBL
第10回	頭で考え伝える(5)		成果	発表	ŧ					ři	PBL  プワーク、
第11回	みんなで調べて伝える( 	1)	大学	構内	]フィールドワーク	(1)				フィー	フワーク、 ルドワーク プワーク、
	みんなで調べて伝える(				フィールドワーク					フィー	ルドワーク、 ルドワーク プワーク、
	みんなで調べて伝える( 				]フィールドワーク					フィー	フワーク、 ルドワーク プワーク、
	みんなで調べて伝える( 				]フィールドワーク 	(4)				フィー	ルドワーク、 ルドワーク プワーク、
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	みんなで調べて伝える( 	5)	成果	発表	ŧ						ルドワーク
評価 方及 評基 基	平常点(授業の参加態度、課題への取り組み)40%、課題提出物60%										
課題等	3つ程度の大きな課題を	出すが	、その経過で	で順次	マ作業が生じる。摂	 受業内で指		確実に	こなすこ	٤٠.	
事前事 後学修	事前の調査や課題は毎回の	の授業	内で指示する	5.							
教材 教科書 参考書	適宜プリントを配布する。	0									
留意点	他の学生とのディスカッ	ション	や人前での多	後表な	いどはそれなりにま	らるので、	そのつもり	でいる	こと。		

					04 11		0 27 / 1				
科目名	基礎演習Ⅱ(2限目		科目ナンバリン			単位数 時 間	2単位	対象学年	1年	開講 学期	後期
		S. 15	科目コード	B5001	1	- 1 1-3	30時間	, ,		1 741	
区分	基礎科目	必修	担当者名		鎌	田学			授業 形態	演習	単独
授業 の 概要 等	「授業の主旨」 「論理的な思考法 (/og/ 社試験、あるいは公務員 〔ディプロマポリシー及 ディプロマポリシーの5	試験( なびカリ	判断推理分野 キュラムポリ	影)対策として <sup>∶</sup> リシーとの関連 <sup>−</sup>	も役立つ	つはずであ 頁〕	<b>うる</b> 。		をう。こ.	れは同時に	将来の入
	前期の学修内容を踏まえ 練する。そして最後に、			≧し小論文作成(	の練習る	を行い、こ					
□	主題			授業			間外の学修				備考
第1回	ガイダンス		前其	学修項目の復習	<b>9</b>						
第2回	価値評価		価値	[評価のパター:	·					ディス	カッション
第3回	価値評価の論証構造		構造	i図をつくる						ディス	カッション
第4回	否定		否定	の概念を正しく	(理解す	-る				ディス	カッション
第5回	連言文と選言文		左訂	についてのド	モルカ	<b>ブンの法則</b>	を理解する			ディス	カッション
第6回	全称文と存在文		左言	についてのド	・モルカ	ブンの法則	を理解する			ディス	カッション
第7回	条件構造		様々	な文章から条件	件構造を	読み取る				ディス	カッション
第8回	条件連鎖		条件	連鎖をつくる約	東習を行	ći				ディス	カッション
第9回	存在文		ΓĦ	論の技術」とし	て存在	巨文の扱い	を学ぶ			ディス	カッション
第10回	消去法 ————————————————————————————————————		「抖	論の技術」とし	して消ま	法を学ぶ				ディス	カッション
第11回	背理法 		「抖	論の技術」とし	して背理	፟፟፟፟፟法を学ぶ				ディス	カッション
第12回	立論、異論、批判		左訂	3概念を理解す	する					ディス	カッション
第13回	小論文を書く		各自	の主題設定で火	小論文を	書く				ディス	カッション
第14回	小論文の組み立て、推敲	<b>t</b>	組み	立て方と推敲の	の仕方に	ついて				ディス	カッション
	まとめ		全位	のまとめ							
評価 方及評基 基	各種課題(50%)と期末 よって行う。	:試験(	50%)。期5	₹試験(ド・モル	ガンの	法則、演	繹のパター:	ン等につ	いて)の	評価は解答	茶の正否に
課題等	授業は各自の「作業」が	中心と	なる。提出る	れた課題は翌月	週に返去	<b>(</b> ].					
事前事 後学修	毎週課題が出される。要	する時	間は3時間程	度。							
教材 教科書 参考書	『新版 論理トレーニン	⁄グ』(野	野矢茂樹 <i>、</i> 産	業図書、本体22	200円、	ISBN978-4	<b>1-7828-021</b> 1	1–3)			
留意点	一回でも欠席すると理解	解困難に	なる。								

			T			<u> </u>			
科目名	基礎演習Ⅱ(3限目)	科目ナンバリン		単位数 時 間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	B50012	F1 (F1	30時間	, –		1 771	
区分	基礎科目 必修	担当者名	鎌	田学			授業 形態	演習	単独
	[授業の主旨]						112.12.		
100	例えば、自分でテーマを設定	し小論文を作成	、これに基づいてプロ	<b>レゼンテー</b>	-ションを行	う等、	前期学修	を踏まえて	、各分野
概要	の能力をトータルに高める。 〔ディプロマポリシー及びカリ	リキュラムポリ	シーとの関連する事項	Į)					
等	ディプロマポリシーの5・7・8	3に関連し、カリ	ノキュラムポリシーの	5 • 7 • 815	関連してい	る。			
到達 目標	日本語、基礎演算、時事・一般	般常識の分野に	ついて、「技能・知言	戦」を一層	獲得し、「	思考力	・表現力	」をより高	<b>ぶめる</b> 。
	主題		授 業 計 画 授業内 <sup>3</sup>		:間外の学修				備考
	ガイダンス	授業	の進め方						
第2回	日本語能力レッスン	テー	マを設定し、小論文を	作成する				課題解	<b>建</b> 建决型学修
第3回	日本語能力レッスン②	テー	マを設定し、プレゼン	テーショ	ンする			課題解	<b>建</b> 建決型学修
第4回	日本語能力レッスン③	テー	マを設定し、グループ	゚゚ディスカ	ッションを	行う		課題解	注 注 型 学 修
第5回	日本語能力レッスン④	論説	文を平易な言葉で解説	付る				課題解	<b>?</b> 決型学修
第6回	日本語能力レッスン⑤	論説	文を平易な言葉で解説	はする②				課題解	<b>深</b> 決型学修
第7回	基礎演算カレッスン	公務	員試験レベルの計算問	題を解く				課題解	<b>?</b> 決型学修
第8回	基礎演算力レッスン②	公務	員試験レベルの計算問	題を解く	2			課題解	<b>?</b> 決型学修
第9回	基礎演算カレッスン③	公務	員試験レベルの計算問	題を解く	3			課題解	<b>?</b> 決型学修
第10回	基礎演算力レッスン④	公務	員試験レベルの計算問	題を解く	4			課題解	<b>?</b> 決型学修
第11回	基礎演算カレッスン⑤	公務	員試験レベルの計算問	題を解く	5			課題解	<b>?</b> 決型学修
第12回	時事・一般常識レッスン	公務	員試験にチャレンジ					課題解	<b>?</b> 決型学修
第13回	時事・一般常識レッスン②	公務	員試験にチャレンジ②	)				課題解	<b>?</b> 決型学修
第14回	時事・一般常識レッスン③	公務	員試験にチャレンジの	)				課題解	<b>?</b> 決型学修
第15回	まとめ	全体	のまとめ						
評 方 及 評 基 基	各種課題(50%)と期末試験	(50%)。期末	試験の評価は、試験魚	<b>军答の正</b> 否	たよって行	ið.			
課題等	自宅等での「ハードな作業」、	, active learr	ingが中心となる授業	。毎週一	定量の課題だ	が出され	ເる。		
事前事 後学修	3時間程度の準備が必要。								
教材 教科書 参考書	『2026年度版最新!SPI3[完:	全版]』(高橋書	店、1540円、ISBN978	-4471431	198)				
留意点	なし								

			T		1	1	1		
科目名	 基礎演習 Ⅱ	科目ナンバリング	L-FUSE0-01. H	単位数 時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
4		科目コード	B50013	时间	30時間	74		于州	
区分	基礎科目 必修	担当者名	坂	井 任			授業 形態	演習	単独
授業 の 概等	〔授業の主旨〕 レポートには大きく分けて「ii 方を身につけ、授業のレポー 〔ディプロマポリシー及びカ ディプロマポリシーの5・7・8	トや卒論等に活っている。	かす。 シーとの関連する事 <sup>」</sup>	頁〕			―トを例	に、レポー	-トの書き
到達目標	レポートがきちんと書けるよ 収集の仕方も学ぶ。 レポートの作成を通じて、情報のようになど。		身につける(インター	ネット等!		· -			
回	主題		授業計画 授業内		間外の学修				備考
第1回	レポートとは	レポ-	ートの種類						
第2回	テーマの選び方	レポ-	ートのテーマを選ぶれ	ペイント					
第3回	テーマを考える	レポ-	ートのテーマの候補を	そ考える					
第4回	テーマに関する下調べ	テーマ	マ候補に関する言葉詞	ボ・キー	ワード調べ			LL教室	
第5回	テーマに関する文献検索	テー	マ候補に関する文献を	き調べる				LL教室	
第6回	テーマの決定	レポ-	ートのテーマを決定す	る				LL教室	
第7回	アウトラインをつくる	レポ-	ートの概要構成を考え	<b>L</b> る				LL教室	
第8回	引用と参考文献	文献 5	別用に関する注意・参	考文献リ	ストの作り	方		LL教室	
第9回	レポート下書き 1		ートの書き方に関する -トの下書き①	注意①				LL教室	
第10回	レポート下書き 2	1 1 1 2	-トの書き方に関する -トの下書き②	注意②				LL教室	
第11回	レポート下書き3	レポ-	-トの書き方に関する -トの下書き③					LL教室	
第12回	パソコンによるレポート作成		コンでレポートを作品 -ト作成作業①	はする際の	注意 			LL教室 USBメモ	リー用意
第13回	パソコンによるレポート作成	2 レポ-	- ト作成作業②						リー用意
第14回	パソコンによるレポート作成。	3 レポ-	ート作成作業③						リー用意
	パソコンによるレポート作成・		一卜作成作業④	(200)				LL教室 USBメモ	リー用意
方法	授業への参加度(40%)、課題へ 毎回取り組んだ課題を提出し、 る。レポートは、レポートの と単位は修得できない。 試験なし。	内容と授業へ	の取り組みを総合して	て各回の平					
課題等	毎回授業内で課題が出る。コ. レポートは添削して返却する。		次回に返却する。						
	授業内で十分に調べられなか。 返却された課題のコメントを								
教材 教科書 参考書	小笠原喜康『講談社現代新書 ISBN 9784065135020	最新版大学生(	のためのレポート・i	扁文術』	(本体800円	+税)			
留意点	上記教科書を購入すること。								

			科目ナンバリ	ング	L-FUSE0-01. H		2単位				
科目名	基礎演習Ⅱ		科目コー		B50014	単位数 時 間	30時間	対象 学年	1年	開講学期	後期
	基礎科目	必修	114-	Ì	500011		001/[[1]				
区分	<b>圣诞行</b> 日	الانكلا	担当者名		奥里	野 武志			授業 形態	演習	単独
	〔授業の主旨〕 借り物でない自分の言う 論し気づきを言語化する 〔ディプロマポリシー ディプロマポリシーの	作業を 及びカ	くり返すことに リキュラムオ	よって	て大学での学びを基礎 一との関連する事項	逆をつくる。 頁〕	ことを目指す	٥	         	がら、疑問に	こついて議
	1) 借り物でない自分の 2) 他人の考え (研究原					分けて示	すことがで	<b>き</b> る。			
0	主				授 業 計 画 授業内 <sup>3</sup>		間外の学修				備考
第1回	ガイダンス			本授	業の目的・概要につ	いて説明				ディス	カッション
第2回	教育と社会化 (1)			教育	とは何か					ディス	カッション
第3回	教育と社会化 (2)			教育	と学習・社会化					ディス	カッション
第4回	教育と社会化(3)			多様	な社会化エージェン	<b>/</b>				ディス	カッション
第5回	学校の目的と機能(1)			学校	の目的					ディス	カッション
第6回	学校の目的と機能(2)			学校	の機能					ディス	カッション
第7回	知識と経験(1)			学校	の知					ディス	カッション
第8回	知識と経験 (2)			知識	と経験					ディス	カッション
第9回	善人の道徳と善い世界	の道徳	(1)	道徳	的に生きる、とは?	•				ディス	カッション
第10回	善人の道徳と善い世界	の道徳	(2)	道徳	的社会化の場として	の学校				ディス	カッション
第11回	善人の道徳と善い世界	の道徳	(3)	知識	は道徳を広げる					ディス	カッション
第12回	善人の道徳と善い世界	の道徳	(4)	「き	しむ車輪は油を差し	てもらえ	.る」			ディス	カッション
第13回	平等と卓越(1)			公教	育の中の平等と卓起	<u>t</u>				ディス	カッション
第14回	平等と卓越 (2) 		-	みん	なにとって有益な教 	育				ディス	カッション
	まとめ			授業	全体の総括					ディス	カッション
評価 方び 評価 基準	評価項目及び評価の・報告の充実度・振り返りの充実原・ディスカッション	ŧ	: 40% : 40%	:する	•						
課題 等	・テキストを読み進 ・振り返りはteamsる	を通じて	提出する。			へ、その場	号で議論する	0			
事前事 後学修	・事前学修:テキス ・事後学修:授業を					事後合わせ	ナて3時間程	度の学術	多を想定	している。	
教材 教科書 参考書	• 教科書 広田照幸	『学校(	まなぜ退屈で	゙゙なぜ	大切なのか』ちくる	<b></b> まプリマー	-新書、2022	?年。(I	SBN:978-	-448068428	8)

授業計画はあくまで予定である。議論の充実を優先するため、進度や内容は変わることがある。

			科目ナンバ	ヾロンガ	L-FUSE0-01. H		2単位				<u> </u>
科目 名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバー		B50015	単位数 時 間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
	甘 I林 된 IFI	心攸	付日コ		800010		30時间				+
区分	基礎科目	必修	担当者名	3	神戸	■ 直樹			授業 形態	演習	単独
授業 の 概要	「授業の主旨」前期の「協同学習」形式を原点に重点をおいた授業が展1)協同学習デクストの予2)協同学習ディスカッショ3)協同学習ディスカッショ方法。論理的な文の書き方法。論理のマポリシーグディプロマポリシーの!	開習ョす論に 及っている かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい	。 2スト内容の 2者の意見の 『ックに成って 『で完成でいせく リキュラム	正確な理 間間で で る。 ポリシ	解とそれに対する自分 3分の意見を論理的に述 考察し、口頭発表、お まが自分のテーマについ と一との関連する事項	の意見の構 べ,議論 よびレポー て書くレポ 頁〕	築) 深める) トをまとめる ートは,互い	。 に評価・			
到達 目標	「基礎演習!」で身につ 論、 発表、レポートな				情報リテラシー, 形で発信する方法を			発見・角	₹決能力 	を磨き, さ	らに,議
	主題				授 業 計 画 授業内 <sup>3</sup>		間外の学修				備考
	ガイダンス			学期テ	ーマ選定、前期に提			振り返	IJ		Pris C
第2回	協同学習①-1			自宅学	習(予習)をしたう	えで協同	学習				
第3回	協同学習①-2 グルー	プミニ	発表	グルー	プミニ発表の準備と	練習					
第4回	協同学習①-3、レポー 文献リスト	トの書	き方①:	ミニレ	ポート1(草稿)提	出とピア	エディティ	ング			
第5回	レポートの書き方②: の選別	リサー	チと資料	ミニレ	ポート1(最終稿)	提出とピ	アエディテ	ィング			
第6回	協同学習②-1			自宅学	習(予習)をしたう	えで協同	学習				
第7回	協同学習②-2 グルー	プミニ	発表	グルー	プミニ発表の準備と	練習					
第8回	協同学習①-3、レポー 参考と引用	トの書き	き方③:	ミニレ	ポート2(草稿)扱	出とピア	エディティ	ング			
第9回	レポートの書き方④ : <i>i</i> 類	 パラグ <sup>-</sup>	ラフの種	ミニレ	ポート2(最終稿)	提出とピ	アエディテ	ィング			
第10回	プレゼンテーション・	 ワーク:	ショップ	PRCA提	出						
第11回	グループ発表①-1(発	表準備)		発表関	連資料を持参						
第12回	グループ発表①-2(グ	—— ループ	発表)	グルー	プ発表の準備と練習						
第13回	レポートの書き方⑤ : 」	— 序論と約	結論	最終レ	ポート(草稿)提出	  -  とピアエ	ディティン	グ 			
第14回	レポートの書き方⑥: 表現	レポー	トの文章	最終レ	ポート(最終稿)提	  出とピア	エディティ	ング			
第15回	まとめ			後期の	振り返り						
	授業参加度(20%) 協同学習(20%) 自宅学習ノート(20%) レポート(25%) グループ発表(15%)										
課題等	上記参照										
事前事 後学修	180分/週										
教材 教科書 参考書	参考書:大島弥生他、2	2014、	『ピアで学	が大学	生の日本語表現[第	2版]』、	ひつじ書房。	(978	4894767	096)	
留意点	授業準備に時間をかけ	、そのタ	生備をもと	に積極	 i的に授業参加するこ	 ことが求 <i>め</i>	 )られる。				

					0 24 14				
科目名	基礎演習Ⅱ	科目ナンバリン		単位数時間	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コート	B50016	F-1 (H)	30時間	, –		1 701	
区分	基礎科目 必例	多 ── 担当者名	Щ	本 尚樹			授業 形態	演習	単独
授業 の 概要 等	[授業の主旨] 広い意味での「心」を題材 口を体験してみる。 〔ディプロマポリシー及び ディプロマポリシーの5・7	カリキュラムポ	リシーとの関連する事	項〕			るという	5科学的な営	なみの入り
	①文章読解、文章執筆、発 ②「こころ」に関して科学		的な視点を身につける	0	・ルを身につ	かける。			
回	主題		授 業 計 <u>區</u> 授業内	-	間外の学修				備考
第1回	ガイダンス	授美	業全体の進め方、留意.	点					
第2回	心理学のテキストを読む(	A1) 広	<b>奏の心に関するテキス</b>	トを輪読す	でる。			ディス	カッション
第3回	心理学のテキストを読む(	(42) 広	<b>義の心に関するテキス</b>	トを輪読す	る。			ディス	カッション
第4回	リサーチの計画(A)	輪	売したテキストの内容	をもとにり	サーチを計	画する。	>		PBL
第5回	リサーチの実施 (A)	計正	国に基づきリサーチを	すう。					PBL
第6回	結果の分析(A)	教員	員の指導のもとリサー	チの結果を	まとめる。				PBL
第7回	発表 (B)	IJ+	ナーチの結果をスライ	ド資料にま	とめ発表す	る。			PBL
第8回	心理学のテキストを読む( 	B1) 広	<b>養の心に関するテキス</b>	トを輪読す	る。			ディス	カッション
第9回	心理学のテキストを読む(B	2) 広	<b>髪の心に関するテキス</b>	トを輪読す	`る。			ディス	カッション
第10回	心理学のテキストを読む(B	3) 広	られた関するテキス 	トを輪読す	·る。 			ディス	カッション
第11回	リサーチの計画 (B)	輪	売したテキストを内容 <sup>。</sup>	をもとにり	サーチを計	画する。	•		PBL
第12回	リサーチの計画・実施(B) 	IJ t	ナーチの計画を行い、	実施する。 					PBL
	リサーチの実施 (B)	計庫	画に基づきリサーチを <sup>を</sup>	うう。					PBL
第14回	結果の分析(B)	教貞	員の指導のもとリサー	チの結果を	まとめる。				PBL
	発表 (B)	IJ+	ナーチの結果をスライ	ド資料にま	とめ発表す	る。			PBL
評価 方及評基 基	平常点(授業の参加態度、	課題への取り組	み)40%、課題提出	物60%					
課題等	リサーチ課題を出すが、そ	の経過で順次作	業が生じる。授業内で	指示するの	で確実にこ	なすこ	と。		
事前事後学修	事前の調査や課題は毎回の	授業内で指示す	 る。						
教材 教科書 参考書	適宜プリントを配布する。								
留意点	リサーチはグループワーク	で行う予定であ	る。なお、受講者の理	解の度合し	などに合れ	つせて授	業進行に	は調整する。	